



結果の返却・活用について



福島県教育委員会

1 個人結果票の返却・活用の流れ

個人結果票は、児童生徒一人一人の「**学力の伸び**」や**学習に関するアドバイス**を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。児童生徒一人一人の意欲を高め、学力を伸ばしていくことができるように、個人結果票の返却・活用の仕方についてポイントをまとめましたので御確認ください。

返却前

- 各学校で保管している**個人番号シール票**をもとに、**個人結果票に組、出席番号、名前**を記入します。
- ※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることとなります。間違いがないか十分に確認してください。

児童生徒には

- 本調査の特長を伝えます。
 - ・ 一人一人の「**現在の学力のレベル**」や、「**学力の伸び**」が分かる調査です。
 - ※ 小学校4年生は、次年度に「**学力の伸び**」が分かります。
 - ・ **学力以外の力**（根気がある、やるべきことをきちんとやる、自分に自信がある等）と、「**学力の伸び**」との関係が見え、学力を伸ばすための手がかりが分かる調査です。
- 県の**平均点**や、**他の児童生徒と比較することよりも、自分の学力がどれだけ伸びているのかを知ることが重要である**ことを伝えます。
- 個人結果票の「**学習に関するアドバイス**」や「**教科の領域別正答率**」などを活用し、**正答率の高い領域をさらに伸ばしたり正答率の低い領域を克服したりするためのアドバイス**をします。

返却時

保護者には

- **別紙「保護者用リーフレット」**を配布し、本調査の特長や個人結果票の活用について保護者に伝えます。
- 保護者会や三者面談、通知表の所見欄等を活用して、個人結果票から見える**児童生徒のよさや課題**を伝えます。
- 「**家庭学習スタンダード**」を参考にし、「**心の支え**」、「**環境づくり**」、「**習慣づくり**」の視点から家庭学習の充実について保護者に伝えます。

国語 教科に関する調査結果

※ 今までの学力の変化

あなたの学力は、レベル10まで伸びました。

レベル	小学校1年生	小学校2年生	小学校3年生	小学校4年生	小学校5年生
レベル10					
レベル9					
レベル8					
レベル7					
レベル6					
レベル5					
レベル4					
レベル3					
レベル2					
レベル1					

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、前年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への意欲に自信を持ち、上をさらに伸ばそう、今後も読書などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

話すこと・聞くこと、書くことは、大変よくできました。さらに力を伸ばすために、話し合える仲間には、相手の立場や考えを尊重し、自分の考えを伝えていることが出来るよう心がけましょう。自分の考えが明確になっているかを考えて話し合えるようにしましょう。書く際には、相手に伝わりやすい文章となるように、読者や読者層を入れながら書くようにしましょう。

また、国語学習は、話す・聞く・読むのほかに、自分の考えを整理したり、自分の考えを表現したり、書くことは、書いた文章を読み返して、表現や内容の検討、方、迷ったところを確かめて、正確に伝えるように心がけて書くといえます。

学年	国語	算数	理科	社会	総合
1	32	75.0	60.7		
2	5	88.0	77.2		
3	4	100.0	80.0		
4	7	97.0	85.0		
5	25	93.0	81.0		

正答率	人数
80%～	10
70%～	20
60%～	30
50%～	40
40%～	50
30%～	60
20%～	70
10%～	80
0%～	90

2 個人結果票の見方と活用について

(1) ふくしま学力調査における学力の捉え方について

本調査ではすべての問題に難易度が設定されており、「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉えています。そのため、年度の異なる調査であっても同じ尺度で学力を測定し、児童生徒の学力の伸びを経年で捉えることができます。

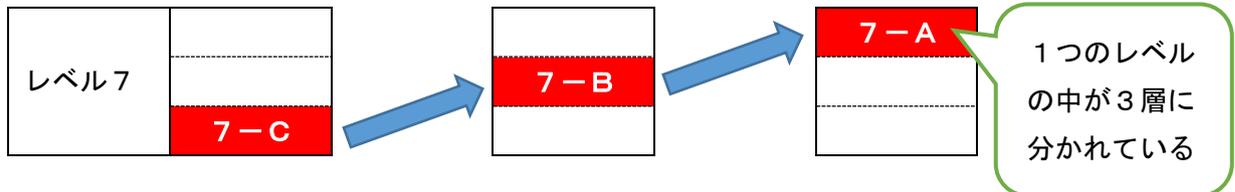
(2) 学力のレベルについて

学力のレベル表記はレベル1からレベル11の11段階ありますが、測定は各学年7段階で行います。

学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～レベル7
小学校5年生	レベル2～レベル8
小学校6年生	レベル3～レベル9

学年	学力のレベル
中学校1年生	レベル4～レベル10
中学校2年生	レベル5～レベル11

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで「学力の伸び」が分かります。例えば、同じレベル7の中でも、学力のレベルが高くなると赤いバーの位置が上方に変わります。前学年でのバーの位置と、今回のバーの位置を比べると、学力の変化が分かります。



※「A」「B」「C」の表記は個人結果票では用いられません(バーの位置のみです)が、学校用の結果帳票で用いられるため、説明の便宜上記載しました。

(3) 学習に関するアドバイスについて

学力調査の結果や学習習慣、領域別の今後の学習アドバイス等が記載されています。返却時や教育相談等の機会を捉え、児童生徒とつまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、児童生徒が学力を伸ばしていけるように働きかけてください。なお、「ふくしま活用力育成シート」や「定着確認シート」を児童生徒の実態に応じ、効果的に活用してください。

3 調査結果の帳票の活用について

個人結果票とともに学校に送付されたCD-ROMには、調査結果の帳票データが収録されています。これらの帳票により、児童生徒の学力のレベルや学力の伸び、学力以外の力等について把握したり、分析したりすることができます。特に御覧いただきたい帳票について紹介します。

帳票09 「教科に関する調査 問題ごとの正答率等一覧表」

各教科の領域ごとの正答率、設問ごとの正答率・無解答率や難易度について知ることができます。

帳票28 「各実施主体の調査結果票」

学年全体の学力レベルの変化や学力の伸びの状況等が教科ごとに、グラフの形でまとめられています。

帳票40 「学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別」

一人一人の児童生徒の学力のレベル、学力の伸び、学習方略や非認知能力の変化等がわかります。